



# 平成灯台守

## 2025. 10月号

発行/御前崎灯台を守る会

### 市長に要望・提案しました

灯台を守る会では7月18日、正副会長が市役所を訪れ下村勝御前崎市長に下記事項を要望・提案しました。

### 1 灯台資料館の位置付けについて

一般社団法人燈光会が行う「登れる灯台」は現在全国に16か所あり、大半が参観と灯台資料館運営をセットで行っていますが、御前崎灯台には資料館がありませんでした。このため灯台を守る会では、灯台の歴史文化と魅力を多くの市民や観光客に伝えていきたいとの思いから平成18年（2006）に会を発足させ、旧官舎を海上保安庁からお借りして灯台資料館を毎週日曜日に開設しています。



展示内容は会員手作りの素朴なものです、来館者との“フェイス ツー フェイス”的案内が好評を博し、会員の喜びや励みとなっています。

今後、御前崎港への外国客船誘致やインバウンドの進展により外国人観光客の増加が予想され、資料館の展示方法や資料、パンフレットなども多国語対応をしてゆかねばなりません。

また、資料館運営に当たる会員の年齢も7、80歳代のボランティア主体であり先行き不安があります。

つきましては、①灯台資料館の運営、

### 御前崎灯台を守る会通信

②展示室の改修、③新しい資料館の建設など御前崎市としての灯台資料館の位置付け、将来方向について検討していただきたいと要望します。

### 2 提案

#### (1) 見尾火灯明堂の修繕について

見尾火灯明堂は平成6年の復元設置以来30年を経過し、屋根や土台などの主な建材が腐食やシロアリ被害に蝕まれ修繕が急務となっていました。

2035年には灯明堂が設置されてから400年になりますので、修繕や案内板設置や古文書解読講座、講演、勉強会等市民を巻き込んだ“見尾火灯明堂400年プロジェクト”的検討をお願いします。

また、作家新田次郎著「灯明堂物語」は御前崎の灯明堂が舞台となっていますので、テレビドラマ・映画化の働きかけを提案します。

#### (2) 御前崎灯台の日制定について

御前崎灯台の誕生日である5月1日を御前崎市の特別な日「御前崎灯台の日」に制定することで、市民には灯台愛、郷土愛の醸成、外向けには御前崎観光の話題性、特色になると思われる所以ご検討をお願いします。

#### (3) 灯台周辺整備検討委員会について

灯台周辺の駐車場、案内板等の適正配置や景観について検討する組織を行政、観光協会、地元町内会、観光・文化財の学識者、関係機関・団体等で作っていただくことを提案します。

### 19年間の入館者数は11万人

平成18年（2006）に灯台を守る会が発足して記録を取り始めてから今年の8月末で110,490人が灯台資料館に入館しました。これまで灯台参観ができない降雨や強風時には閉館を余儀なくされてきましたが、今年4月から当番の状況判断で開設できるようになり、特に強風時に灯台を訪れた観光客から喜ばれています。

## よその灯台見学記

### 三浦半島の灯台巡り

灯台資料館当番で多くの灯台好きにめぐり会い、気づけば灯台も旅の目的になっていた。今回は梅雨の合間にマイカーで三浦半島を周って来ました。

まずは復元された浦賀の燈明堂。低い岩場の上の松林に囲まれていい雰囲気だ。

1848年江戸幕府の築造だから御前崎の見尾

火灯明堂より13年遅いことになる。入口には無人式有料駐車場もあり、ゆっくり一周しながらペリーの黒船が目前に停泊した江戸末期を味わう。ふと見尾火灯明堂の灯を若い二人が守った「灯明堂物語」(新田次郎著)が思い浮かんだ。



次は日本初(明治2)の洋式灯台となつた觀音崎灯台。長州藩が起こした下関戦争後、外圧から締結された江戸条約により建てられた。

岬下の駐車場に停め、歴史を感じる石段を喘ぎながら登った岬の頂にあった。燈光会の職員のみ細道のバイク登坂が許されている。灯塔の上から東京湾を眺め、外国船を安全に横浜に入れるため一番最初に建てられた灯台だと感慨にふける。

灯塔と資料館見学は一体で参観寄付金￥300出さないと入れない。資料館内は撮影禁止だが貴重品が多く、観るには行くしかない。平日のせいか、2度の地震で崩れて3代目灯台のためか有名な割に訪問者は



少なかった。しかし、燈明堂と併せて横須賀市が力を入れて周辺整備しており見応えも十分だ。

翌朝一番は同じく江戸条約の鋤崎灯台

(明治4、三浦市)。車道の道幅は狭く、入口は車一台がやっと通れる小径のどんづまり、Uターン場所に停めた。

古い石畳を歩いた高台にポツンと小ぶりな灯台が立っていた。眺めは雄大で、対岸の洲崎灯台(千葉県館山市)と一対で狭い浦賀水道の道標となっている。周囲はなにもないが灯台サポーター会があると聞いたことがある。



次は鮎で有名な三浦三崎港の高台にある城ヶ島灯台(明治3)。眼下には岩場が広がり釣人があちこちに見える。灯台下すぐの



中腹にリゾートマンションが建設中で街中にある灯台といった風情で付近の駐車場は釣人と観光客で満杯、この灯台は相模灘の守り神だ。

最後、藤沢市江の島にある観光用の展望灯台シーキャンドル(平成14)はまるでテーマパーク。島は神社、仏閣、食堂など平日でもインバウンド外国人を含め観光客で賑わっていた。登り口通路には店が連なり、台湾の九份みたい。頂上まで有料のエスカレーターをいくつか乗り継ぎ、さらに展望灯台はエレベーター(当然有料)で登る。展望回廊はさすがに高く、近くのマリーナや江の島海岸など眺めも抜群だ。



後で調べたら城ヶ島灯台の近くにもう一つ安房崎灯台(令和2)があった。三浦大根をモチーフにした灯塔で見たかったが宿題にしておこう。灯台は行ってみないと価値がわからない。

by Hiroshi